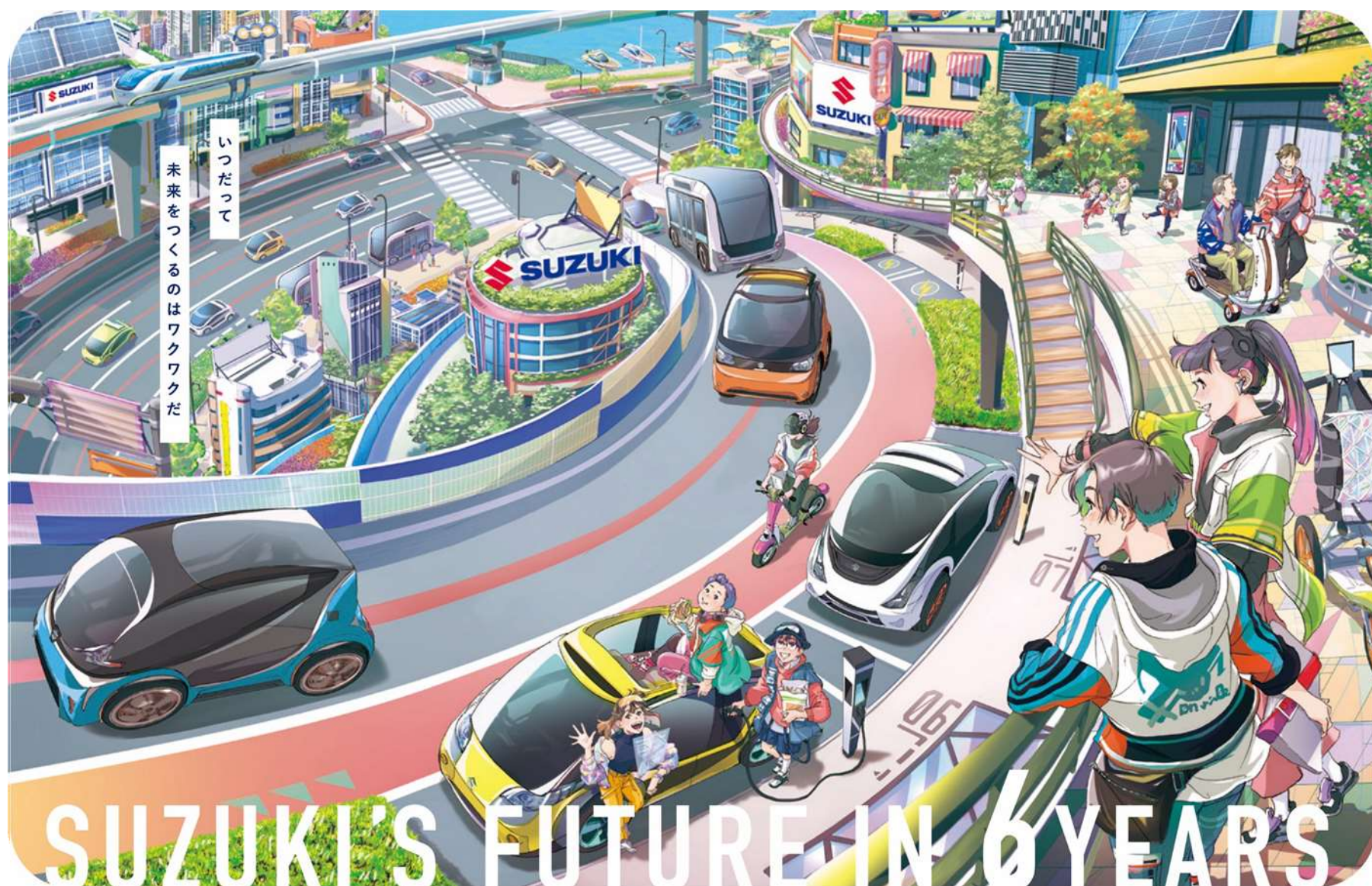




6 年後、君は何にワクワクしている？



LINKS 今すぐ最新の情報を確認するにはこちらから

※状況に応じて変更となる場合があります。



インターンシップ情報

インターンシップやセミナーなど
各種イベント情報のほか、
ピックアップ動画も視聴いただけます。



募集要項

募集職種の業務内容や応募資格などを
ご確認くださいませ。
詳しい求人票もこちらから。



応募方法・選考プロセス

職種ごとに応募方法と、
選考のフローを掲載しています。
職種によって異なるので、以下よりご確認を！



Let's Entry! エントリーはこちらから



ご希望の方はスズキHPのほか、リクナビ、キャリアス
就活、マイナビからエントリーしてください。
※ログインしていただくスズキ株式会社の会員制ページに
自動的にログインできます。

／ エントリーしていただくと ／

WebセミナーやOBOG訪問などへ参加できる！

エントリーしていただくと、
スズキ会員制マイページにて、
各種WebセミナーやOBOG
訪問、採用担当との座談会
など、様々なイベントへご応募
いただけます！



人と社会に必要とされ続けること。



その結果、2030年度までに
売上**7兆円**を見込んでいます！

お客様の立場になった「価値ある製品」づくりをモットーに、独自の価値を確立してきたスズキは次のステップへ。3本の柱を軸に持続的な成長を実現し、2030年度の目指すビジョンに向け、売上倍増に挑みます。



成長戦略1

時代に柔軟に 構造改革

100年以上の歴史ある企業ながら、柔軟さ・素早さ・チャレンジ精神を忘れず、時代に合わせ企業風土を改革。社員一人ひとりの挑戦をバックアップする人材育成と、誰もが働きやすい職場づくりを目指しダイバーシティの取り組みを強化します。

企業風土改革

人材育成 DX 推進

成長戦略2

変化への対応力で リスク極小化

目まぐるしく変化する現代社会において、リスクは避けては通れません。しかしながら、不安定な世界情勢でも、リスクを最小限に抑えながら品質を確保する体制を整備。同時に、コンプライアンスのさらなる徹底を強化しています。

半導体・部品不足

原材料価格の高騰

品質確保

法令遵守

成長戦略3

将来に向けた 種まき

「手の届く価格」での電気自動車(EV)普及やCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)推進の取り組みなど、未来を見据えた投資、技術開発に尽力。地域のニーズに合ったカーボンニュートラルの達成に取り組んでいきます。

カーボンニュートラル

CASE

将来・先行技術

アライアンス

INTERVIEW

SUZUKIで活躍する先輩たちの声

財務
2022年入社



**個人の意思を尊重し、
若いうちから機会を与えてくれる。
だから、大きく成長できる！**

もともと興味を持っていた自動車業界で、希望がかなって財務本部への配属となりました。最初は先輩の補助的な仕事から始めるのかと思っていたのですが、いきなり貿易の重要な決済の窓口を担当することになり、少しビックリしました(笑)。

でも、先輩方が業務を必ず見てくれていて、困ったことがあればすぐにサポートしてくださるんです。先輩方にとても助けていただいたおかげで、いろいろと学ぶことができ、今ではほぼ自分で対応できるようになりました。社内で少しずつ認められてきたと実感できる時がいまはうれしいです。



「若手社員による座談会」より

全文をCHECK! >>>

開発(材料)
2015年入社



**社内初の試みを、
入社5年目から挑戦。
日々新鮮でやりがいを感じる！**

私たちが普段乗っている自動車には、1台あたり約3万点もの部品が使われています。私の部署では、その部品に使われる材料の開発や調査を担当しています。私が現在携わっているのは、EVやハイブリッド車の駆動用モーターに使われる“磁性材料”を評価する技術の開発。今後、需要が増加するEVモーター用の“磁性材料”について、高い精度で開発を行うために作業手順やノウハウを規格化する業務がスタートしました。社内初の試みですので、一筋縄ではいかないのですが、日々新鮮。新しいチャレンジを積極的に上司が勧めてくれるのも、やりがいを感じる点です。



「社員インタビュー」より

全文をCHECK! >>>

開発(EV)
2016年入社



**スズキのEVに私のシステムを。
未知の領域の開発に
挑むことができる！**

地球環境を守るための脱炭素社会の実現に向けて、自動車の電動化が世界的に加速しています。スズキも独自のハイブリッド車やEV(電気自動車)の開発を進めており、そのなかで私は入社以来、EVに搭載するシステムの開発に携わっています。

この開発に取り組むためには、電池に関する技術を理解しておかなければなりませんし、システムを構築する上ではソフトウェアの知識も必要。求められるレベルは高いですが、スズキがまだ足を踏み入れていない未知の領域に、こうして若いうちからチャレンジできることにとてもやりがいを感じています。



「スズキのミライ」より

全文をCHECK! >>>